

北方地区活性化計画

平成26(2014)年3月

北方地区町内会長連絡協議会
(北方地区地域計画策定委員会)

目 次

序章	計画策定にあたって	1
1章	地区の概要	2
1	位置	2
2	人口・世帯数	2
3	道路・交通	4
4	主要公共公益施設	4
2章	北方地区の活性化計画づくりのためのアンケート調査結果の概要	6
1	地区住民（16歳以上）	6
2	小学生（4～6年生）・中学生	14
3章	地区の魅力・資源と問題点・課題	16
1	地区の魅力・資源	16
2	地区の問題点・課題	18
4章	地区活性化計画	19
1	地区の将来像	19
2	地区づくりの基本方針	21
3	地区づくりの基本計画	22
4	計画の推進体制	29
資料	計画策定の取り組み	30

序章 計画策定にあたって

1 計画策定の目的

北方地区（以下「地区」といいます。）では若年層を中心に人口が流出するなど、過疎化・高齢化が進行し、町内会活動の担い手不足、農林業の低迷など、地区の活力が低下しています。特に本地区では、町内会によって過疎化・高齢化の状況が異なっており、町内会相互の連携によって、地区全体の維持・活性化を図ることが求められています。

こうした状況を打開するには、自分たちの地区のことは自分たち自らで考え、一人ひとりがそれぞれの立場で協力して地区の活性化に取り組むことが一段と重要になっています。

このため、北方地区町内会長連絡協議会では、三原市中山間地域活性化事業を活用し、「北方地区活性化計画」の策定に取り組みました。

2 計画の役割

「北方地区活性化計画」は、北方地区町内会長連絡協議会が中心になって取り組むことを総合的に示したもので、住民、関係団体などで地区づくりの方向性を共有するとともに、共通の指針とするものです。

また、計画内容を広く発信して、地区出身者、都市住民など、多様な人に幅広い応援を働きかけるために活用します。

3 計画策定への取り組み

北方地区町内会長連絡協議会では、町内会、各種団体の代表者などで構成する「北方地区地域計画策定委員会」を設置し、「北方地区活性化計画」の策定に取り組みました。

また、計画策定にあたっては、住民の皆さんの幅広い意見を聞くために、地区住民（16歳以上）及び小学生（4～6年生）・中学生へのアンケート調査の実施、地区内全住民を対象としたワークショップ（意見交換会）を行いました。

4 計画の期間

計画の期間は、平成26(2014)～30(2018)年度までの5年間とします。

1章 地区の概要

1 位置

本地区は三原市本郷地域の西部に位置し、北部には広島空港が立地しています。

また、公共公益施設、スーパーが立地し、本郷地域中心部の一翼を担っている下北方地区、梨和川沿いに農地・集落が帯状に広がる上北方地区、集落が点在する善入寺地区で構成されています。

2 人口・世帯数

(1) 人口の動向

本地区の総人口を国勢調査で見ると、平成22(2010)年で1,467人になっており、過去5年間で約2%減少しています。

年齢3区分別人口をみると、平成22(2010)年で0～14歳167人、15～64歳793人、65歳以上507人になっています。高齢化率は約35%で、三原市中山間地域の37%よりやや低くなっています。

過去5年間で0～14歳及び15～64歳人口は減少していますが、65歳以上人口は増加しています。

表1 人口の推移 (単位：人，%)

区分	平成17 (2005)年	平成22 (2010)年	増減		
			実数	割合	
実数	合計	1,490	1,467	△23	△1.5
	0～14歳	183	167	△16	△8.7
	15～64歳	829	793	△36	△4.3
	65歳以上	478	507	29	6.1
割合	0～14歳	12.3	11.4		
	15～64歳	55.6	54.0		
	65歳以上	32.1	34.6		

注：資料は、国勢調査。

(2) 世帯数の動向

本地区の世帯数を国勢調査で見ると、平成22(2010)年で512世帯になっており、過去5年間で26世帯増加しています。

1世帯当たり世帯人員は平成22(2010)年で2.87人になっており、過去5年間で0.20人減少しています。

表2 世帯数などの推移 (単位：世帯，人)

区分	平成17 (2005)年	平成22 (2010)年	増減
世帯数	486	512	26
世帯人員	3.07	2.87	△0.20

注：資料は、国勢調査。

(3) 人口の将来見通し

本地区の人口の将来見通しを平成17(2005)年と平成22(2010)年の国勢調査人口をもとに、年齢コーホート推移率法で推計すると、平成30(2018)年で1,370人、平成35(2023)年で約1,300人になり、平成22(2010)年と平成35(2023)年を比較すると約170人の減少が見込まれます。

年齢別に平成22(2010)年と平成35(2023)年を比較すると、0～14歳で167人が83人、15～64歳で793人が620人、65歳以上で507人が598人になり、0～14歳及び15～64歳で減少、65歳以上で増加するものと見込まれます。

また、高齢化率は、平成30(2018)年で約42%、平成35(2023)年で約46%になるものと見込まれます。

図1 年齢3区分別人口推計

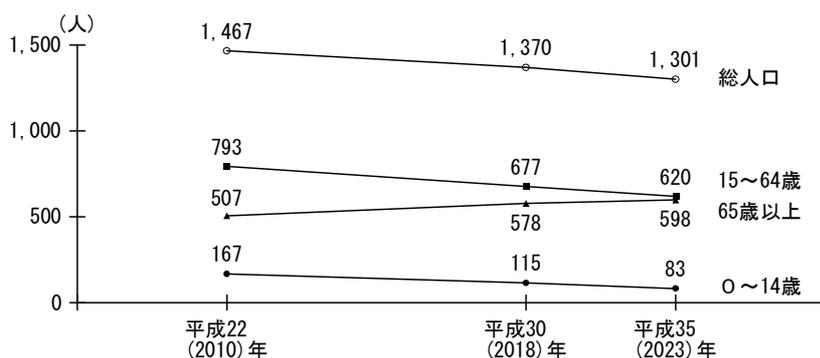


図2 年齢3区分別人口割合

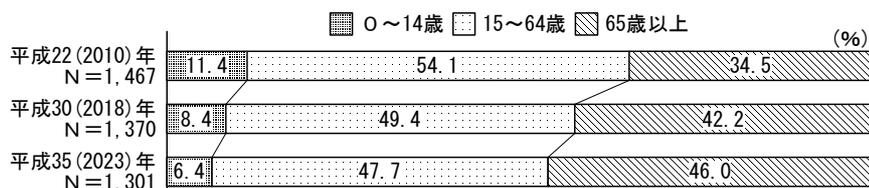
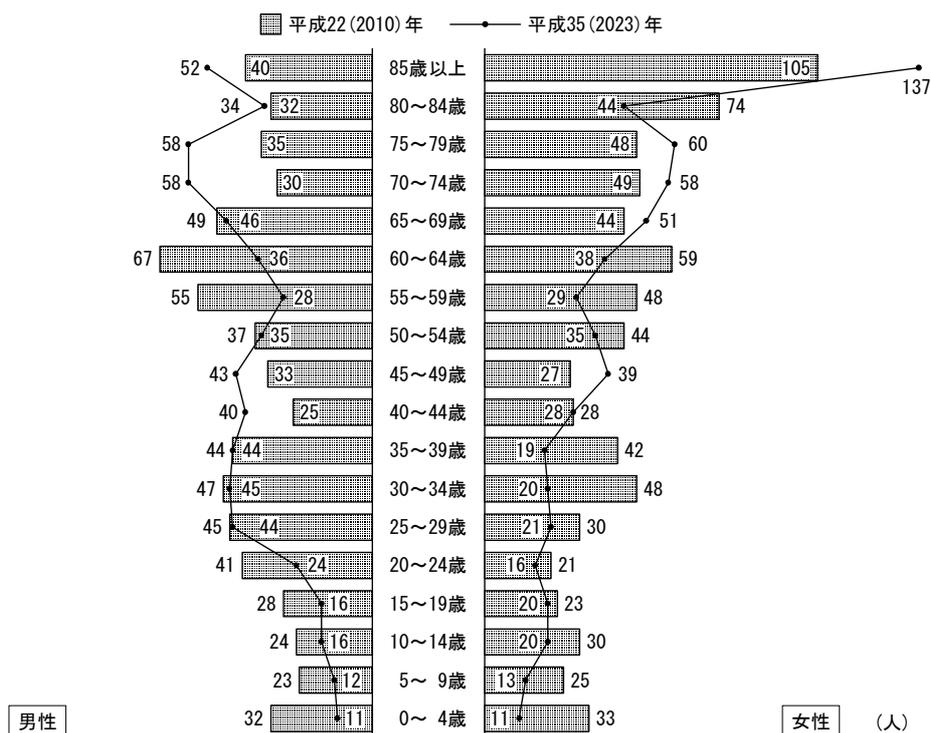


図3 男女別5歳階級別人口



3 道路・交通

道路網は、本地区の南部を東西に国道2号と(主)瀬野川福富本郷線が走るとともに、中部及び北部を南東から北西方向に(主)東広島本郷忠海線が走り、本地区の骨格道路になっています。これらの道路で、中部及び北部から本郷地域中心部に10～15分でアクセスでき、比較的利便性に恵まれています。その他に、(主)広島空港本郷線、(主)本郷大和線が走り、広島空港と連絡しています。

また、市道を通じて山陽自動車道本郷インターチェンジと10～15分で連絡しています。

生活交通は、路線バス(日名内・北方線)が週3日運行し、(主)本郷忠海線の本谷以南及び上谷とJR山陽本線本郷駅を連絡しています。

4 主要公共公益施設

本地区の主要な公共公益施設は、下北方地区に集中しています。また、上北方地区の中心部に小学校、コミュニティセンター、グラウンド・ゴルフ場があります。

表3 地区の公共公益施設

地区	区分	名称
下北方	教育施設	・本郷中学校
	児童福祉施設	・本郷ひまわり保育所
	文化集会施設	・本郷公民館
	保健福祉施設	・本郷福祉センター
	スポーツ施設	・本郷体育センター
	医療施設	・本郷中央病院
	生活利便施設	・JA三原本郷中央支店 ・やっさふれあい市場本郷店 ・マックスバリュ本郷店 ・ホームプラザナフコ
上北方	教育施設など	・北方小学校
	文化集会施設	・北方コミュニティセンター
	スポーツ施設	・北方グラウンド・ゴルフ場
善入寺	保健福祉施設	・健康増進施設

図4 地区の道路・交通, 主要公共公益施設



2章 北方地区の活性化計画づくりのためのアンケート調査結果の概要

本調査は、地区住民（16歳以上）及び小学生（4～6年生）・中学生の幅広い意見を把握し、「北方地区活性化計画」の策定に反映するために行いました。

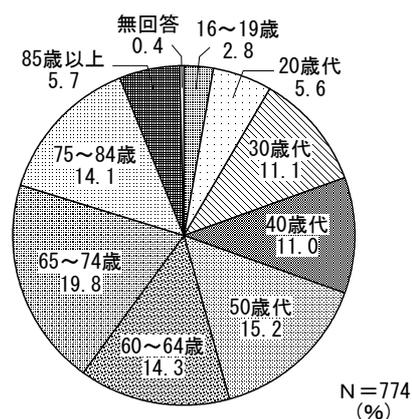
調査票の回収状況は、地区住民（16歳以上）774件、小学生（4～6年生）・中学生35件でした。

1 地区住民（16歳以上）

(1) 回答者の年齢

回答者の年齢は、40歳未満19.5%、40～59歳26.2%、60～74歳34.1%、75歳以上19.8%になっています。

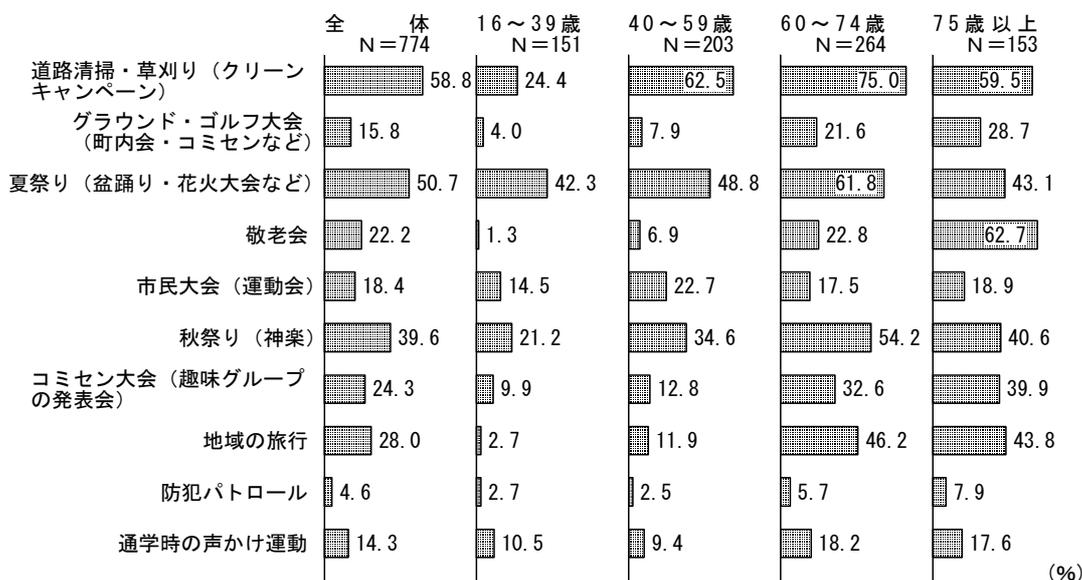
図5 年齢



(2) 行事や活動への参加状況

本地区の行事や活動へ参加している人（「ほぼ参加」、「半分程度参加」、「時々参加」を合わせた割合）の割合をみると、「道路清掃・草刈り（クリーンキャンペーン）」が58.8%で最も割合が高く、次いで「夏祭り（盆踊り・花火大会など）」50.7%で、この2項目が5割以上と割合が高くなっています。その他では、「秋祭り（神楽）」39.6%「地域の旅行」28.0%、「コミセン大会（趣味グループの発表会）」24.3%、「敬老会」22.2%などの順です。

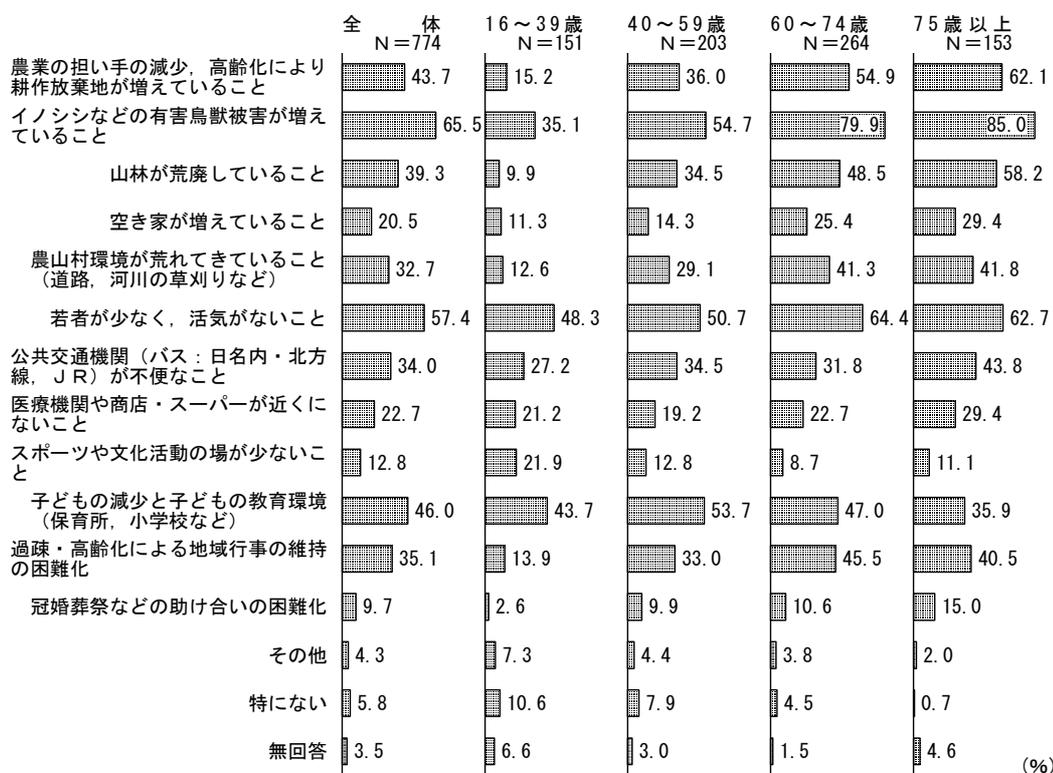
図6 行事や活動への参加状況



(3) 地区の現状や将来のことで不安に思っていること

地区の現状や将来のことで不安に思っていることの内容をみると、「イノシシなどの有害鳥獣被害が増えていること」を挙げた人が65.5%で最も割合が高く、次いで「若者が少なく、活気がないこと」57.4%、「子どもの減少と子どもの教育環境（保育所、小学校など）」46.0%、「農業の担い手の減少、高齢化により耕作放棄地が増えていること」43.7%、「山林が荒廃していること」39.3%の順で、これらの項目が上位5位を占めています。その他では、「過疎・高齢化による地域行事の維持の困難化」35.1%、「公共交通機関（バス：日名内・北方線、JR）が不便なこと」34.0%、「農山村環境が荒れてきていること（道路、河川の草刈りなど）」32.7%、「医療機関や商店・スーパーが近くにないこと」22.7%、「空き家が増えていること」20.5%などの順です。

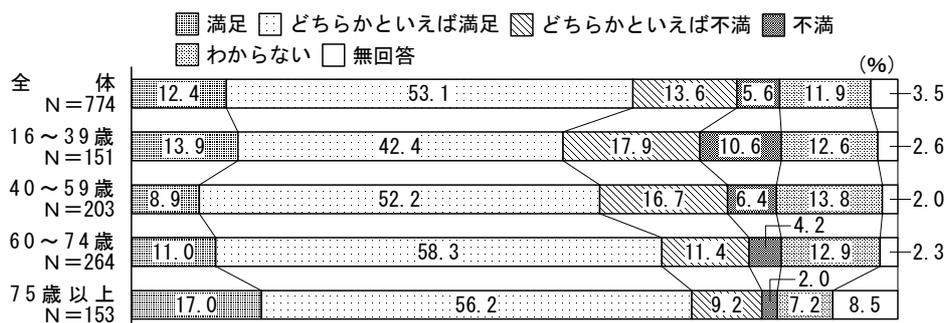
図7 地区の現状や将来のことで不安に思っていること（複数回答：いくつでも）



(4) 地区の住みやすさの評価

地区の住みやすさについては、「満足」12.4%、「どちらかといえば満足」53.1%で、これらを合わせた住みやすさに満足している人の割合は65.5%です。

図8 地区の住みやすさの評価



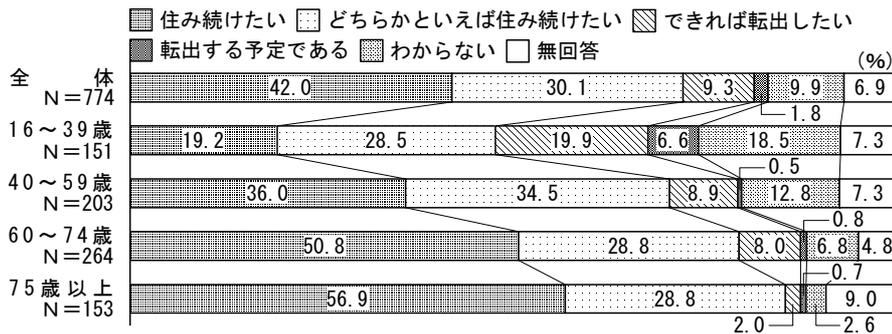
(5) 地区への今後の居留意向とその理由

ア 地区への今後の居留意向

地区への今後の居留意向は、「住み続けたい」42.0%、「どちらかといえば住み続けたい」30.1%で、これらを合わせた地区へ住み続ける意向の人は72.1%です。

年齢別に地区へ住み続ける意向の人の割合をみると、75歳以上が85.7%で最も割合が高く、次いで60～74歳79.6%、40～59歳70.5%、16～39歳47.7%の順です。

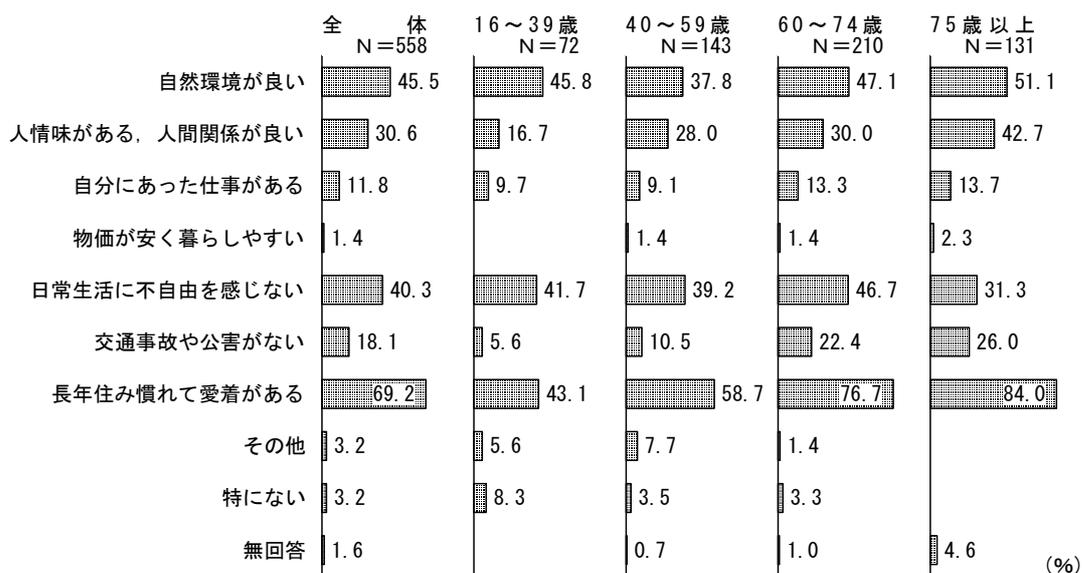
図9 地区への今後の居留意向



イ 地区に住み続けたいと思う理由

地区に住み続ける意向の人の住み続けたいと思う理由は、「長年住み慣れて愛着がある」を挙げた人が69.2%で最も割合が高く、次いで「自然環境が良い」45.5%、「日常生活に不自由を感じない」40.3%、「人情味がある、人間関係が良い」30.6%などの順です。

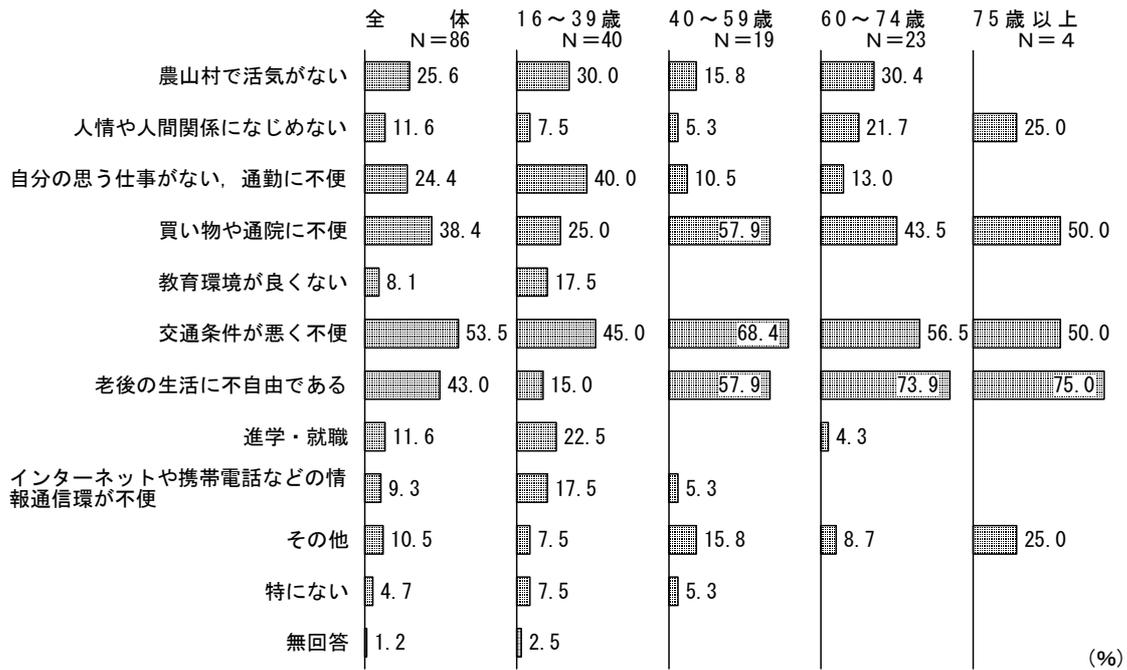
図10 地区に住み続けたいと思う理由（複数回答：いくつでも）



ウ 地区を転出したいと思う理由

地区を転出する意向のある人の地区を転出したいと思う理由は、「交通条件が悪く不便」を挙げた人が53.5%で最も割合が高く、次いで「老後の生活に不自由である」43.0%、「買い物や通院に不便」38.4%、「農山村で活気がない」25.6%、「自分の思う仕事がない、通勤に不便」24.4%などの順です。

図11 地区を転出したいと思う理由（複数回答：いくつでも）



(6) 今後の地区づくりについて

ア 地区で大事にしたい、活用したい資源（自由記述）

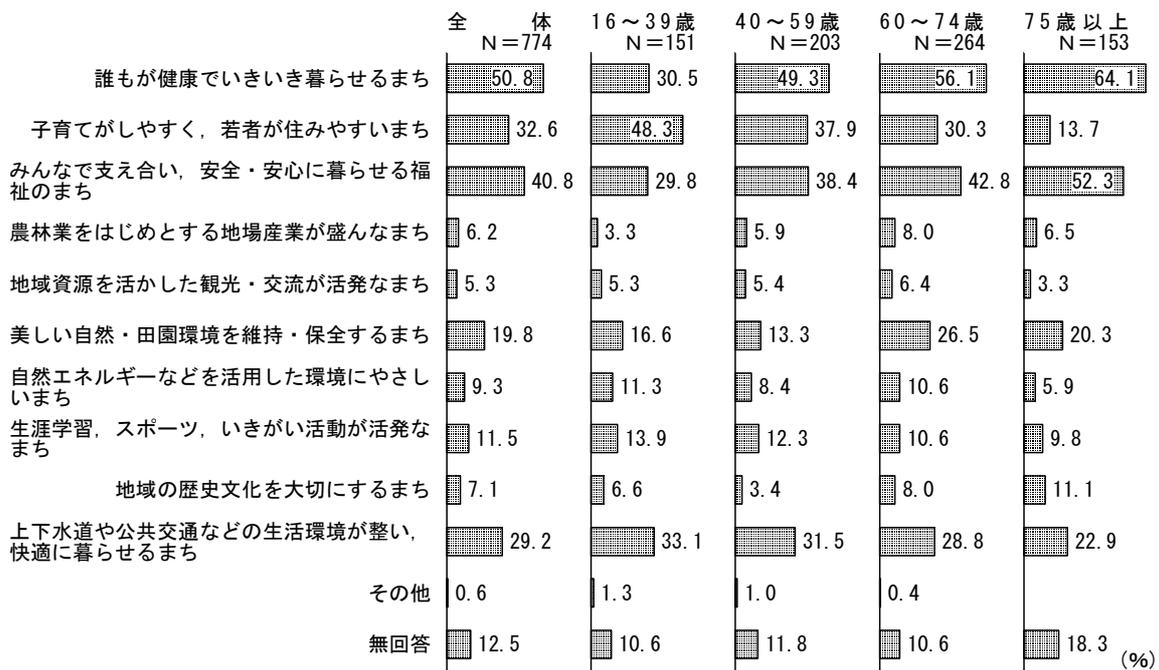
地区で大事にしたい、活用したい資源として次のようなものが挙げられています。施設としては、北方コミュニティセンター67件、北方小学校63件でこの2項目を挙げた人が多くなっています。その他では、北方グラウンド・ゴルフ場が35件と比較的多くなっています。

歴史文化資源としては、梅木平古墳40件、梨羽城跡27件、自然資源としては梨和川36件、梨羽城の桜21件などになっています。

イ 地区の将来像

地区の将来像は、「誰もが健康でいきいき暮らせるまち」を挙げた人が50.8%で最も割合が高く、次いで「みんなで支え合い、安全・安心に暮らせる福祉のまち」40.8%、「子育てがしやすく、若者が住みやすいまち」32.6%、「上下水道や公共交通などの生活環境が整い、快適に暮らせるまち」29.2%の順で、これら4項目を挙げた人の割合が高くなっています。

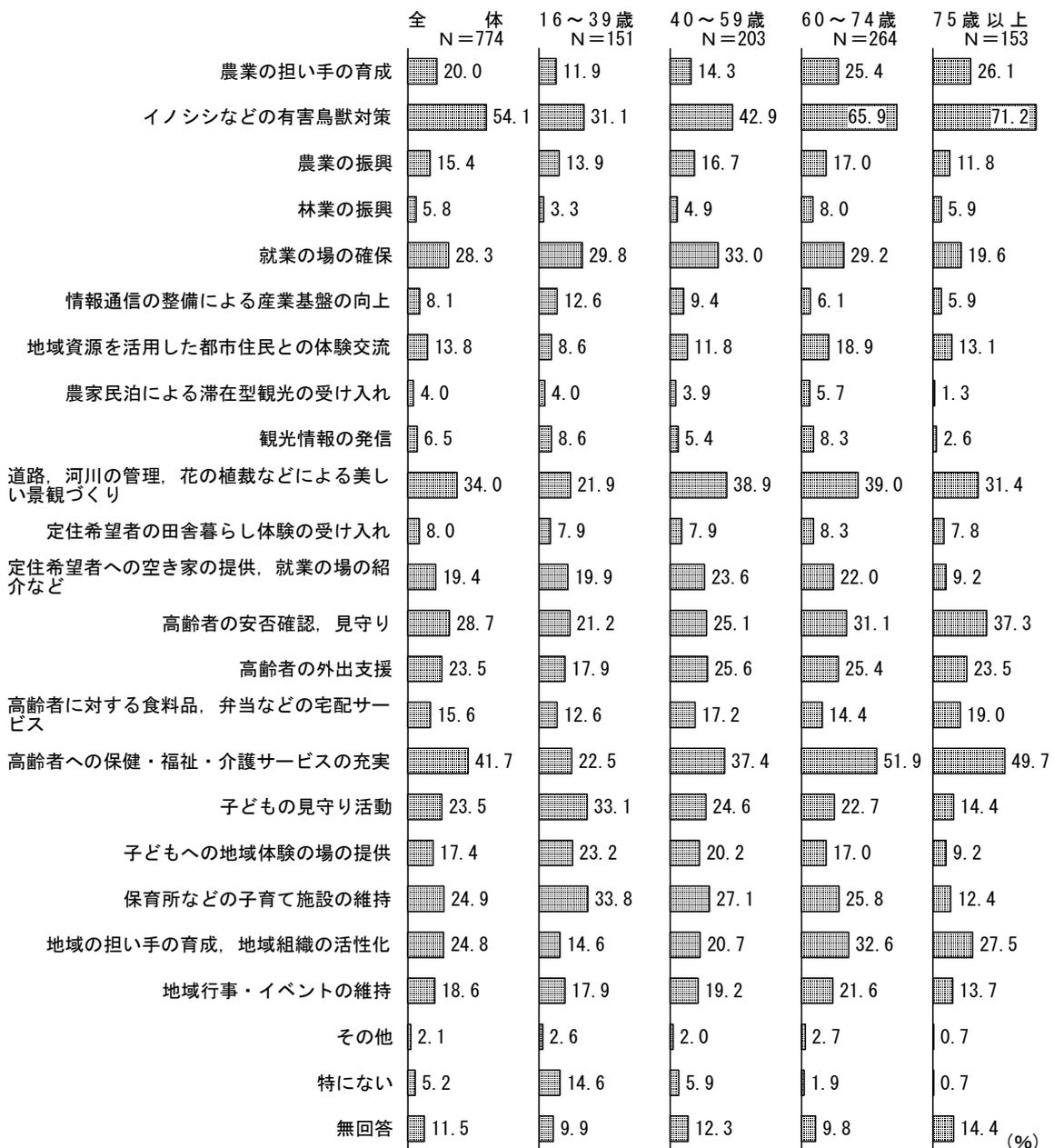
図12 地区の将来像（複数回答：3つ以内）



ウ 地区で今後取り組みたいこと、取り組んでほしいこと

地区で今後取り組みたいこと、取り組んでほしいことの内容をみると、「イノシシなどの有害鳥獣対策」を挙げた人が54.1%で最も割合が高く、次いで「高齢者への保健・福祉・介護サービスの充実」41.7%、「道路、河川の管理、花の植栽などによる美しい景観づくり」34.0%、「高齢者の安否確認、見守り」28.7%「就業の場の確保」28.3%の順で、これらの項目が上位5位を占めています。その他では、「保育所などの子育て施設の維持」24.9%、「地域の担い手の育成、地域組織の活性化」24.8%、「高齢者の外出支援」及び「子どもの見守り活動」23.5%、「農業の担い手の育成」20.0%などの順です。

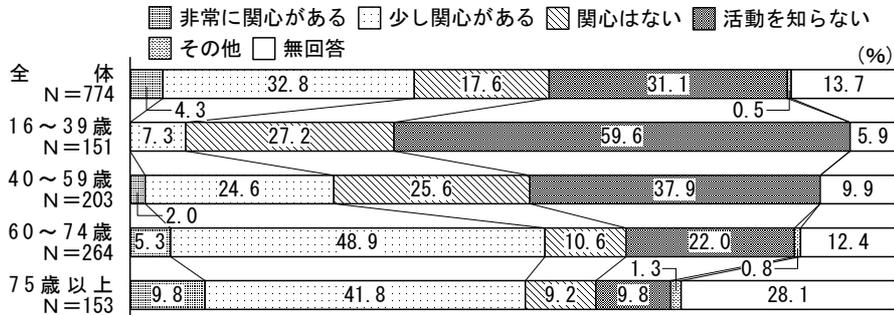
図13 地区で今後取り組みたいこと、取り組んでほしいこと（複数回答：いくつでも）



エ 北方地区町内会長連絡協議会活動への関心

北方地区町内会長連絡協議会の活動について、「非常に関心がある」4.3%、「少し関心がある」32.8%で、これらを合わせた協議会活動に関心のある人は37.1%です。

図14 北方地区町内会長連絡協議会活動への関心



(7) 農地の耕作状況について

世帯主であると答えた人で、農地を「所有している」と答えた人は62.2%です。

ア 農地の所有面積

農地を所有している人の農地の所有面積は、「30 a (3反)未満」と答えた人が33.5%で最も割合が高く、次いで「30 a (3反)~50 a (5反)未満」33.0%、「50 a (5反)~100 a (1町)未満」24.6%、「100 a (1町)~200 a (2町)未満」6.1%の順で、100 a (1町)未満の人がほとんどを占めています。

イ 耕作していない農地の割合

「耕作していない農地はない」と答えた人は15.6%です。

一方で、耕作していない農地がある人は76.4%で、その内訳は、農地の1~5割程度45.2%、農地の6~9割程度20.6%、「農地の全部」10.6%です。

図15 農地の所有面積

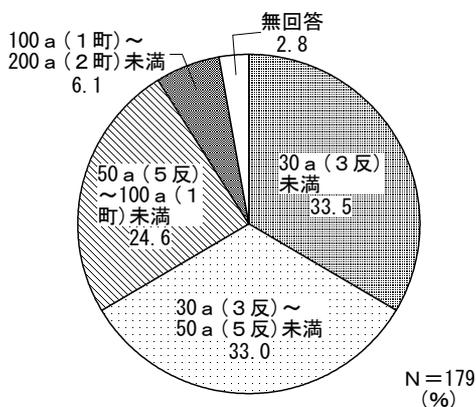
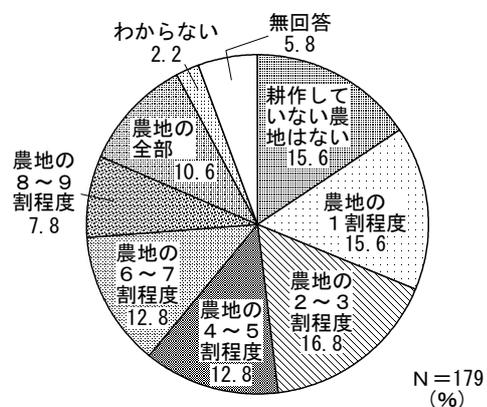


図16 耕作していない農地の割合



ウ 農地の現在の耕作状況

農地の現在の耕作状況は、「家族で耕作している」と答えた人が67.0%で最も割合が高く、次いで「家族で耕作するとともに、他の農家や農業生産法人に耕作を頼んでいる」11.7%、「家族で耕作せず、他の農家や農業生産法人に耕作を頼んでいる」11.2%、「耕作を頼む農家や農業生産法人がないので、耕作していない」5.6%の順です。

エ 農産物の販売状況

農産物の販売状況は、「農産物を販売していない」と答えた人が58.7%で約6割を占めています。農産物を販売している人は25.8%で、JAへ出荷している人が25.2%でほとんどを占めています。

オ 農地の今後の耕作意向

農地の現在の耕作状況において、「家族で耕作している」と答えた人は67.0%と最も割合が高くなっていますが、農地の今後の耕作意向において「今後も家族で耕作する」と答えた人は38.0%となっており、今後、6割程度まで減少することが見込まれます。

一方で、「家族での耕作面積を減らし、他の農家や農業生産法人に耕作を頼む面積を増やす」6.7%、「家族での耕作をやめ、他の農家や農業生産法人に耕作を頼む」14.5%、「耕作をやめる」8.9%、「わからない」24.0%などになっており、農地を管理する新たな受け皿が求められています。

図17 農地の現在の耕作状況

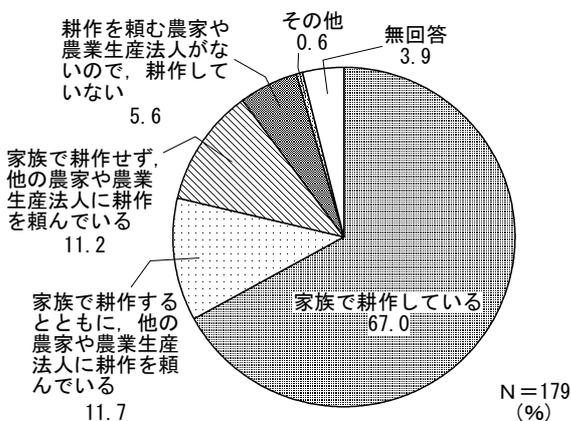


図18 農産物の販売状況

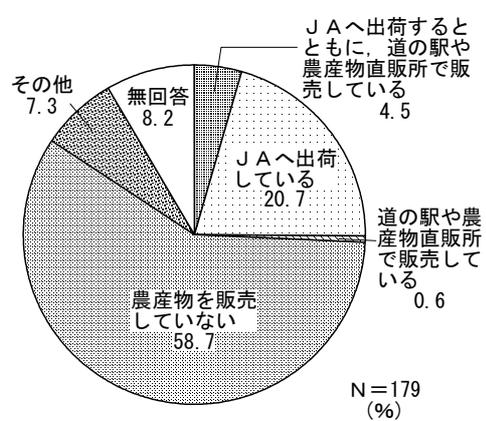
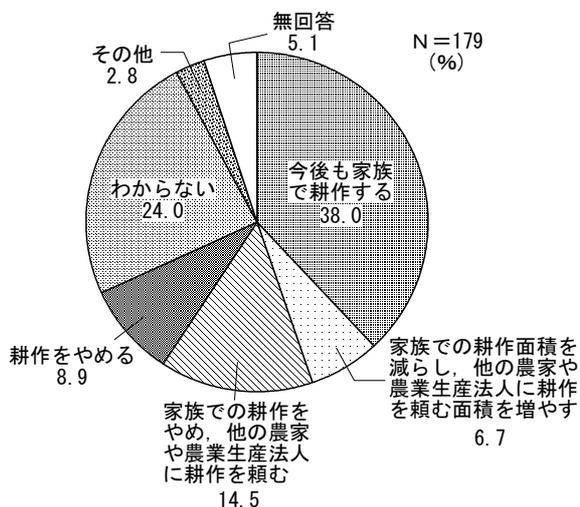


図19 農地の今後の耕作意向



2 小学生（4～6年生）・中学生

回答した35人は、小学生（4～6年生）54.3%（19人）、中学生42.8%（15人）、不明2.9%（1人）です。

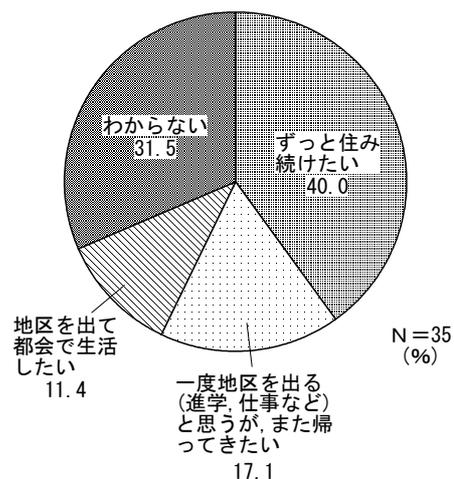
(1) 地区のすばらしいところ（自由記述）

地区のすばらしいところとして、自然資源で梨和川、梨羽城の桜、施設などで北方グラウンド・ゴルフ場、北方小学校、北方コミュニティセンター、歴史文化資源で梅木平古墳、梨羽城跡などが挙げられています。

(2) 地区への今後の居留意向

地区への今後の居留意向は、「ずっと住み続けたい」40.0%、「一度地区を出る（進学、仕事など）と思うが、また帰ってきたい」17.1%で、これらを合わせた地区へ居住する意向の人は57.1%です。

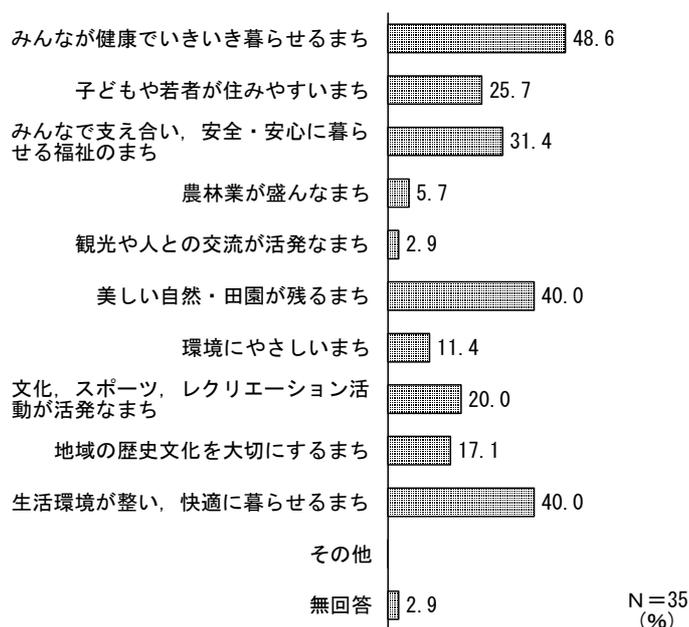
図20 地区への今後の居留意向



(3) 地区の将来像

地区の将来像については、「みんなが健康でいきいき暮らせるまち」を挙げた人が48.6%で最も割合が高く、次いで「美しい自然・田園が残るまち」及び「生活環境が整い、快適に暮らせるまち」40.0%、「みんなが支え合い、安全・安心に暮らせる福祉のまち」31.4%、「子どもや若者が住みやすいまち」25.7%、「文化、スポーツ、レクリエーション活動が活発なまち」20.0%などの順です。

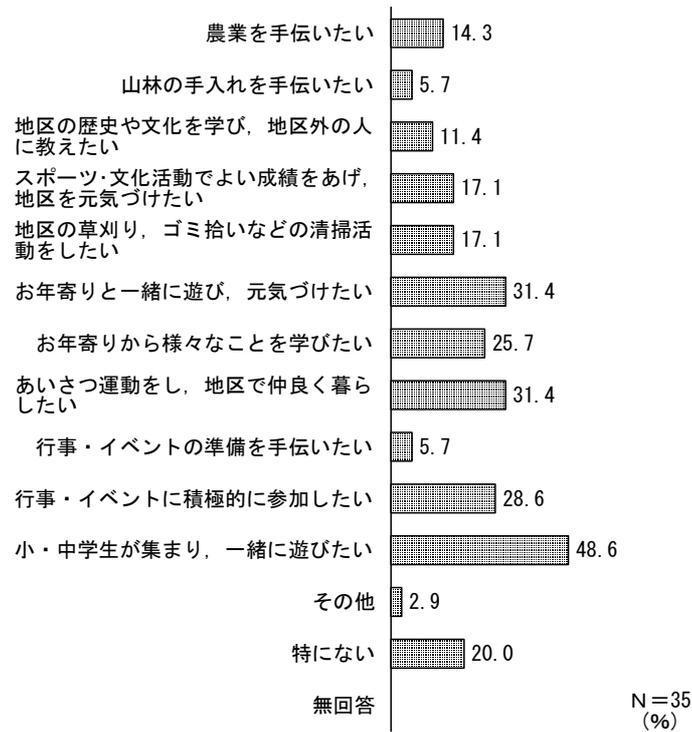
図21 地区の将来像（複数回答：いくつでも）



(4) 地区を住みよくするためにしたいこと

地区を住みよくするためにしたいこととしては、「小・中学生が集まり、一緒に遊びたい」を挙げた人が48.6%で最も割合が高く、次いで「お年寄りと一緒に遊び、元気づけたい」及び「あいさつ運動をし、地区で仲良く暮らしたい」31.4%、「行事・イベントに積極的に参加したい」28.6%、「お年寄りから様々なことを学びたい」25.7%などの順です。

図22 地区を住みよくするためにしたいこと（複数回答：いくつでも）



3章 地区の魅力・資源と問題点・課題

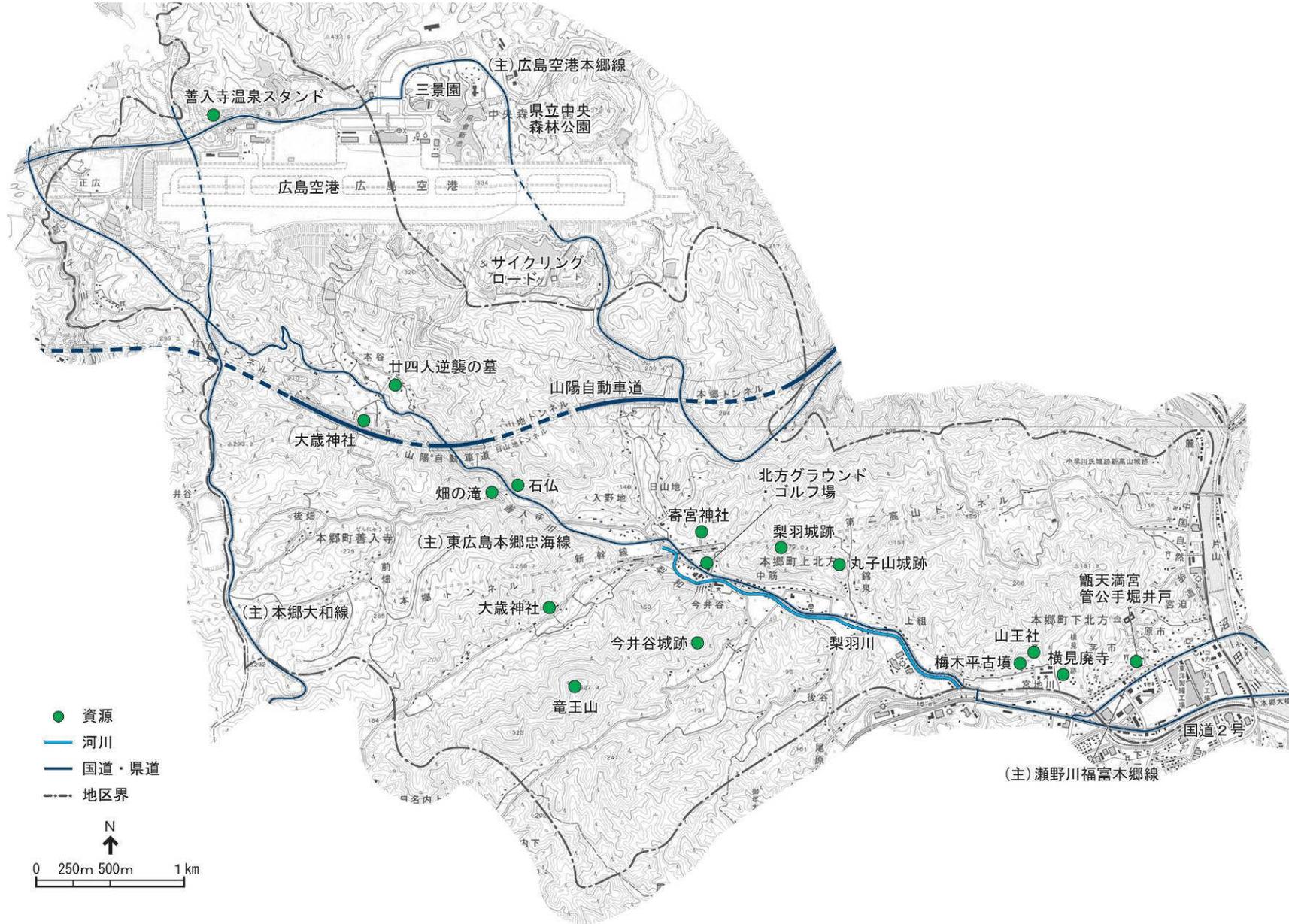
1 地区の魅力・資源

アンケート調査結果及びワークショップ（意見交換会）での意見を踏まえて、地区の魅力・資源を整理すると、次のとおりです。

表4 地区の魅力・資源

区 分	内 容
自然資源	・竜王山，梨和川，畑の滝 ・梨羽城跡の桜，本谷の芝桜
歴史文化資源	・横見廃寺（国指定の文化財） ・梅木平古墳（県指定の文化財） ・大歳神社（2か所），甌天満宮，管公手堀井戸，岩屋観音，山王社，寄宮神社 ・梨羽城跡，丸子山城跡，今井谷城跡 ・石仏，廿四人逆襲の墓 ・梨和清流太鼓，北方の昔話
産業資源	・日山地の棚田，遊休農地
観光・交流施設	・北方グラウンド・ゴルフ場 ・善入寺温泉スタンド，善入寺そば ・広島空港，三景園，県立中央森林公園，サイクリングロード
人材	・特技を持つ人材

図23 地区の魅力・資源



2 地区の問題点・課題

アンケート調査結果及びワークショップ（意見交換会）での意見を踏まえて、地区の問題点・課題を整理すると、次のとおりです。

表5 北方地区の問題点・課題

項目	問題点・課題
高齢者の暮らし	<ul style="list-style-type: none"> 一人暮らしをはじめとする高齢者のみの世帯の日常生活の不安（引きこもり，通院，買い物など） 高齢者の介護に対する不安 高齢者の介護施設の不足
若者の定住・子育て環境・U J I ターン	<若者の定住> <ul style="list-style-type: none"> 若者の減少により活気がないこと 子どもの就学時期になると若者世帯が流出すること 未婚の若者がいること
	<子育て環境> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの減少により活気がないこと 小学校の複式学級化，統合への不安
	<U J I ターン> <ul style="list-style-type: none"> U J I ターンへの取り組みが不十分であること 空き家の活用が不十分なこと
農林業・農林地の管理	<農業・農地の管理> <ul style="list-style-type: none"> イノシシなどの有害鳥獣による農作物被害防止対策の強化 担い手の高齢化・減少に伴う遊休農地の増加（農地管理が困難化する農家の大幅な増加への懸念） 農産物の特産品化
	<林業・林地> <ul style="list-style-type: none"> 山林の荒廃の進行 木材を活用した産業おこし
観光・交流	<ul style="list-style-type: none"> 地区内にある広島空港の活用が不十分であること 自然資源，歴史文化資源，北方グラウンド・ゴルフ場の活用不足 文化財への意識が低く，管理が不十分であること 北方地区のPR不足 来訪客に対する飲食サービス，特産品販売施設がないこと
生活環境	<ul style="list-style-type: none"> 小規模集落の過疎化・高齢化の進行による集落維持への不安 管理が不十分な空き家の増加による生活環境の悪化 中部，北部地区に商店がないこと 防災無線設備がないこと 県道の未改良区間があること
地区活動	<ul style="list-style-type: none"> 北方地区活性化の核になる組織がないこと 高齢化の進行による担い手の減少で，清掃，草刈りなどへの参加が負担になっている世帯の増加 町内会単位の行事の維持の困難化 子どもの減少に伴う子ども行事の維持の困難化 町内会入会世帯の減少

4章 地区活性化計画

1 地区の将来像

本地区の活性化計画づくりのためのアンケート調査結果において、次の4項目を挙げた人の割合が高くなっています。

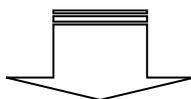
また、現在は町内会単位の活動が主体ですが、過疎化・高齢化が進む中で、地区全体で結束して活性化に取り組むことが大事になります。

このため、本地区の活性化計画づくりのためのアンケート調査結果、北方地区活性化ワークショップでの意見、本地区の今後の動向などを踏まえて、地区の将来像として「**強い絆の中で、誰もが安心していきいき暮らせる北方地区**」を掲げます。

また、こうした地区の将来像の実現に取り組むことともに、「**郷土に愛着と誇りを持つ人が溢れる北方地区**」を人づくりの目標として掲げます。

＜地区の将来像に関する意見：10頁参照＞

① 誰もが健康でいきいき暮らせるまち	50.8%
② みんなで支え合い、安全・安心に暮らせる福祉のまち	40.8%
③ 子育てがしやすく、若者が住みやすいまち	32.6%
④ 上下水道や公共交通などの生活環境が整い、快適に暮らせるまち	29.2%



＜地区の将来像＞

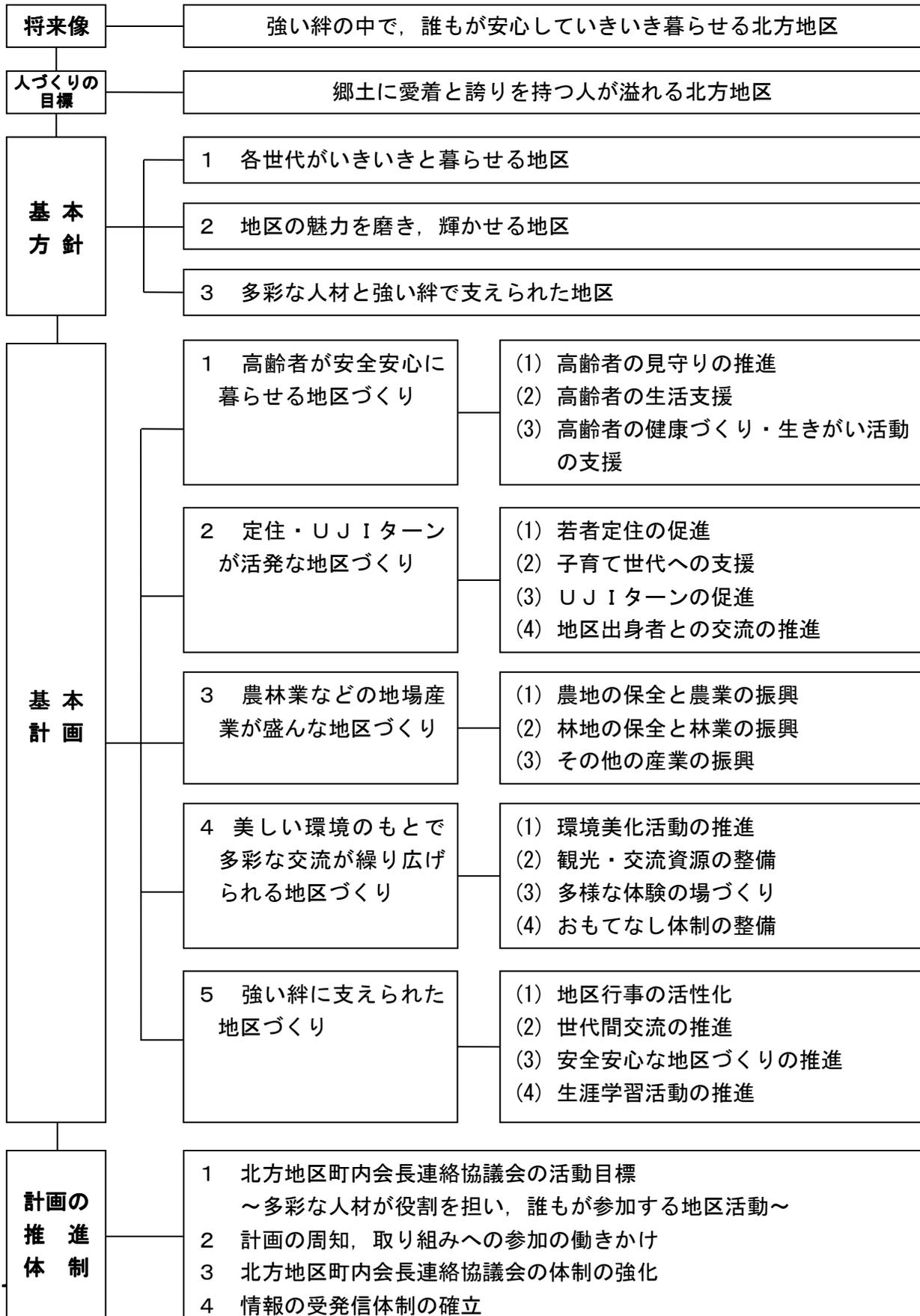
強い絆の中で、誰もが安心していきいき暮らせる北方地区

＜人づくりの目標＞

郷土に愛着と誇りを持つ人が溢れる北方地区

地区の将来像の実現に向けて、地区づくりの基本方針、基本計画及び計画の推進体制を次のように掲げます。

＜地区づくりの体系＞



2 地区づくりの基本方針

地区の将来像を実現するために、3つの基本方針を掲げます。

1 各世代がいきいきと暮らせる地区

- ・地区住民の支援のもとに、高齢者が安全安心に暮らせる地区
- ・地区全体の子育て支援により、地区に愛着と誇りを持つ子どもが育つ地区
- ・若者が地区での生活を楽しみ、地区活動に積極的に参加する地区
- ・同世代、世代間の交流が活発で、地区住民相互で支え合う地区

2 地区の魅力を磨き、輝かせる地区

- ・農林地の保全と活用，農林業の振興
- ・自然，歴史資源などを磨き，来訪者が地区を満喫できる仕組みづくり

3 多彩な人材と強い絆で支えられた地区

- ・強い絆で結ばれ，協働で地区づくりに取り組む地区
- ・地区出身者との交流が活発で，協働で地区づくりに取り組む地区
(土地・建物の管理・活用に係る連携，Uターンしやすい環境づくり)

3 地区づくりの基本計画

地区の将来像及び基本方針を踏まえて、地区づくりの基本計画において5つの柱と主な取り組みを掲げます。

この内容は、アンケート調査結果、ワークショップ（意見交換会）での意見をもとにとりまとめたものです。

1 高齢者が安全安心に暮らせる地区づくり

一人暮らし、夫婦のみの高齢者世帯が増加しており、こうした世帯が安全安心に暮らせるように必要な支援を行うほか、元気な高齢者が生きがいを持って暮らせる場づくりが必要です。

このため、高齢者のみの世帯を中心に見守り活動、交通及び買い物の支援に取り組むほか、高齢者の健康づくり・生きがい活動の推進に取り組みます。

また、高齢者が既存の保健・福祉・介護保険制度を活用しながら、住み慣れた地区で暮らせるように、制度の周知に努めます。

(1) 高齢者の見守りの推進

ア 高齢者訪問体制の充実

- ・隣近所での声かけ、挨拶運動の推進
- ・町内会単位での声かけ体制づくり
- ・社会福祉協議会、民生委員児童委員、一人暮らし巡回相談員などと連携した見守り体制の充実（見守り訪問する対象、訪問日の調整など）

イ 情報通信器機を活用した安否確認

- ・携帯電話、パソコンを活用した安否確認（メールなど）

(2) 高齢者の生活支援

ア 高齢者が利用しやすい交通手段の確保

- ・地区で予約乗合タクシーの運行の検討
- ・本郷中央病院の患者送迎車を北方地区の生活交通手段として活用する方法の検討（本郷中央病院との調整）
- ・路線バスの増便の働きかけ

イ 外出が困難な高齢者のための買い物支援

- ・地区での宅配サービスの検討（電話などでのご用聞き、買い物、宅配）
- ・移動販売事業者へ、地区内での移動販売車の運行の働きかけ

ウ 災害時の支援体制の充実

- ・災害時に支援を望む高齢者、障害者に対する避難支援の充実
- ・防災マップの作成・配布、防災訓練の実施

エ 軽作業の支援

- ・家の回りの草刈り、墓掃除など、軽微な作業支援をする地区サポート組織の設立
- ・シルバー人材センターや社会福祉協議会（ほっとは一と事業）の支援制度の周知と活用

の支援

(3) 高齢者の健康づくり・生きがい活動の支援

ア 高齢者サロン活動の充実

- ・町内会別ふれあいサロンの充実（スタッフ・参加者の拡充，開催回数の増大など）
- ・常設サロン設置の検討（高齢者の送迎手段の確保が必要）

イ 健康づくり・生きがい活動の推進

- ・老人クラブでの健康づくり（ウォーキング，健康体操など）の推進
- ・北方コミュニティセンターを活用した健康づくり活動の充実（生涯学習活動，スポーツ）
- ・北方グラウンド・ゴルフ場などを活用したグラウンド・ゴルフの推進

ウ 保健・福祉・介護制度の周知

- ・市の関係部門，介護サービス事業所と連携して，高齢者に対する保健・福祉・介護保険制度，利用手続きなどの周知

2 定住・U J I ターンが活発な地区づくり

若者が地区外に流出するとともに子どもが減少しており、地区の活力が低下してきています。また、若者をはじめとする人口の減少などに伴い、商業サービス施設の減少、空き家の増加などが進みつつあり、生活利便性や子育て環境の低下が懸念されます。

このため、若者が定住し、子育てがしやすい環境づくりを推進するとともに、空き家の活用や地区出身者との交流の強化により、U J I ターンの促進を図ります。

(1) 若者定住の促進

- ・婚活の推進（婚活パーティー、地区での世話焼きなど）
- ・農林業などの地場産業の振興を通じた若者の就業の場の確保

(2) 子育て世代への支援

- ・登下校時の安全パトロールの継続
- ・子ども110番の充実
- ・地区での挨拶運動の推進
- ・社会福祉協議会などと連携した子育て支援活動（ほっとは一と事業）の充実
- ・親が子育てに安心できる環境づくり（寺子屋的な雰囲気のある塾、子どもの預かりを合わせた場づくり）
- ・自然、歴史文化、農林業体験の提供による地区に愛着を持つ子どもの育成

(3) U J I ターンの促進

- ・空き家の紹介体制の確立（空き家の調査、賃貸・売買物件の発掘、所有者との条件調整、三原市空き家バンクでの募集など）
- ・U J I ターン者に対する生活相談体制の確立

(4) 地区出身者との交流の推進

- ・地区出身者に対する地区情報（地区行事、観光・交流情報など）の発信（インターネットの活用など）
- ・地区内でふるさと同窓会開催の働きかけ

3 農林業などの地場産業が盛んな地区づくり

農業の担い手の減少、高齢化、農産物価格の低下に伴い農地の荒廃が進むとともに農業が低迷しています。近年は、イノシシなどの有害鳥獣被害の増大に伴う営農意欲の低下が進んでいるほか、山林の荒廃、遊休農地の増加に伴う地区環境の悪化が進んでいます。

このため、地区で協力して適切な有害鳥獣対策を講じるとともに、農業の担い手の確保、高収益が期待できる農産物の生産・販売、加工などに取り組みます。また、林地の保全や林業の振興、その他産業の振興に取り組みます。

(1) 農地の保全と農業の振興

ア 有害鳥獣対策

- ・有害鳥獣防護柵の効果を高めるために集落単位での設置の推進
- ・テキサスゲート（シカ、イノシシなどが通ることができない溝状のゲート）設置の検討

イ 担い手の確保

- ・農業生産法人の設立による農地の一体的な管理による農地の保全と農業振興、農業生産法人への就農希望の若者の受入、育成
- ・農業への地元企業などの参入の推進
- ・農地管理への非農家の参加システムの検討（農地オーナー制度、農作業の委託、農業塾、市民農園の開設など）
- ・学童農園、観光農園（果実）の開設

ウ 特産品の生産・加工・販売

- ・遊休農地を活用した特産品づくり（柿、イチジク、桃の栽培など）
- ・JAと連携した農産物のブランド化（本谷のコシヒカリなど）
- ・善入寺そばの充実（そばの生産・加工・販売）
- ・地産地消を推進する店舗で地元農産物の販売
- ・広島空港を活用した特産品販売の検討

(2) 林地の保全と林業の振興

ア 里山管理に係る意識啓発

- ・若者への里山整備の働きかけ
- ・地区の自然に目を向けた森林学習などの推進（地区で山林を借りて、森林学習林づくり（広葉樹林、梅、栗、柿などの栽培））

イ 林業の振興

- ・木材を活用した肥料などの生産（チップ、パウダー）
- ・竹チップ、間伐材を熱源として活用
- ・マツタケ、キノコの栽培と加工工場の整備

(3) その他の産業の振興

- ・遊休農地を活用した太陽光発電施設の整備と売電の取り組みの検討

4 美しい環境のもとで多彩な交流が繰り広げられる地区づくり

本地区には緑豊かな自然資源、横見廃寺などの歴史文化資源、北方グラウンド・ゴルフ場などの観光・交流資源などがありますが、十分に活用されているとはいえない状況にあります。

このため、本地区の環境美化活動を推進して緑豊かな環境を保全するとともに、それぞれの資源を見直し、魅力ある資源として磨き上げるほか、四季、利用層などに応じた多様な体験コースづくりを行い、来訪客に情報提供します。

また、インターネットなどを通じて広域的な観光・交流情報の発信を行うとともに、来訪客が地区で豊かな体験ができるように、観光マップの作成、観光ガイド（小・中学生など）の育成、案内標識の整備、サービス施設の確保などに取り組みます。

さらに、地区イメージを発信するためイメージキャラクターづくりに取り組みます。

(1) 環境美化活動の推進

- ・河川、里山及び道路清掃の充実と高齢者世帯に対する負担の軽減方策の検討
- ・エコ・リサイクル活動への取り組みの強化

(2) 観光・交流資源の整備

ア 自然資源

- ・竜王山登山道を活用したウォークラリー大会の開催（ポイントごとに子どもが説明）
- ・梨和川体験の提供
- ・魚が豊富な川づくり
- ・カワニナを増やし、ホタルの里づくり
- ・生物（魚、オシドリ）観察、水遊びの場づくり
- ・釣り大会の企画
- ・梨羽城跡の桜、本谷の芝桜、畑の滝の活用

イ 歴史文化資源

- ・横見廃寺の復元、整備
- ・梨羽城跡一帯の整備
- ・山全体のイルミネーション化、四季のイベント開催
- ・遊歩道の整備
- ・梨和清流太鼓の活用（地区行事の盛り上げ）

ウ その他資源

- ・日山地の棚田の復活
- ・北方グラウンド・ゴルフ場のPRと利用促進、独自のグッズ開発、販売（スティック、ボールなど）
- ・善入寺温泉の整備
- ・スッポンの養殖、料理店の経営

(3) 多様な体験の場づくり

ア 歴史文化体験コースづくり

- ・歴史文化体験コースづくりとPR（名所、神社仏閣、城跡など）
- ・オリエンテーリング大会の開催
- ・地区行事と連携した体験企画

イ 自然・農林業体験コースづくり

- ・子ども、ファミリー向けに農林業体験の提供（自然、歴史文化体験メニューと連携したプログラムづくり）
- ・民泊（ホームステイ）受入による宿泊体験の提供

ウ 高齢者グラウンド・ゴルフ+地区体験コースづくり

- ・北方グラウンド・ゴルフ場での練習，大会を核としつつ，北方地区での多様な体験の提供（自然，農林業体験及び歴史文化体験の提供）

(4) おもてなし体制の整備

- ・観光・交流に係る情報発信体制の確立（ホームページなど）
- ・観光・交流資源ガイドマップの作成，観光ガイドの育成（地区の小・中学生など）
- ・観光・交流資源，コースなどの案内標識の充実，整備
- ・来訪客に対する休息，飲食，特産品販売などのサービスを提供する体制の充実（善入寺そば店など）
- ・地区をPRするためのゆるキャラづくり（町内会対抗「ゆるキャラコンテスト」の開催）
- ・北方地区のホームページの開設

5 強い絆に支えられた地区づくり

本地区では、町内会を単位とした活動と地区（北方地区町内会長連絡協議会が中心）を単位とした様々な活動が行われていますが、過疎化・高齢化が進む中で、活動の担い手、参加者が減少して運営が困難化しつつある町内会があります。

このため、町内会相互での活動の支援，地区行事の活性化，世代間交流の推進，安全安心な地区づくり，生涯学習活動の推進などより，地区の強い絆づくりに取り組みます。

(1) 地区行事の活性化

- ・地区行事のあり方の検討（町内会単位から地区単位へ）
- ・子どもを中心とした地区行事の検討（子どもが参加すれば親も参加）（小学校を中心とした取り組みを大事にする）

(2) 世代間交流の推進

- ・梨和清流太鼓を活用した世代間交流の推進
- ・北方小学校のOB，OGの参加を働きかけ，子どもだけでなく成人のグループづくり
- ・夏祭りで発表，成人グループは小学校で技術指導
- ・北方グラウンド・ゴルフ場を活用した世代間交流グラウンド・ゴルフ大会の開催

(3) 安全安心な地区づくりの推進

- ・地区単位の自主防災組織の設立の検討と防災マップづくり
- ・災害時の要援護者の支援体制の強化

(4) 生涯学習活動の推進

- ・地区の歴史文化資源などを含めた地区学習の推進による，地区に対する愛着と誇りの醸成（子どもから大人まで）
- ・北方コミュニティセンターを核とした生涯学習活動の推進
- ・北方地区郷土史の編纂
- ・地域博物館づくり（昔の農機具，生活用品，学用品などの収集，展示）
- ・特技，貴重な体験などを持つ住民を「わが町の誇り」としてDVDで紹介するとともに，生涯学習活動に活用

4 計画の推進体制

(1) 北方地区町内会長連絡協議会の活動目標

「北方地区活性化計画」の推進主体となる北方地区町内会長連絡協議会の活動目標を次のように掲げます。

多彩な人材が役割を担い、誰もが参加する地区活動

(2) 計画の周知、取り組みへの参加の働きかけ

「北方地区活性化計画」の周知、取り組みへの参加の働きかけを行います。

(3) 北方地区町内会長連絡協議会の体制の強化

ア 組織体制の強化

現在、北方地区町内会長連絡協議会は地区全体の意志決定は行っていますが、個々の活動は、主に町内会単位で行われています。

このため、「北方地区活性化計画」の推進を図るためには、地区単位で活動できる組織づくりが必要であり、町内会の理解を得たうえで本協議会に推進組織を設置します。

推進組織は、北方地区地域計画策定委員会と同様に町内会から選出された人を中心に、地区の各種団体の代表者などで構成し、計画の具体化に取り組みます。

イ 段階的な取り組みの推進

北方地区町内会長連絡協議会に設置する推進組織において計画の優先順位付けを行い、段階的な取り組みを推進します。

ウ 計画推進に向けての連携体制づくり、人材の育成

「北方地区活性化計画」で掲げた各種取り組みを推進するため、本地区の住民、各種団体、NPO法人、企業などとの連携を強化するとともに、地区出身者、都市住民、三原市などの支援を受けながら推進します。

また、講演会、研修会、先進地視察などの開催による人材の育成に努めます。

(4) 情報の受発信体制の確立

北方地区町内会長連絡協議会の地区行事などの情報が住民に共有されるように、情報発信のあり方を検討します。また、地区出身者や都市住民との交流及びU J Iターンを推進するため、本協議会のホームページの開設を検討します。

ア 地区内向けの情報受発信

- ・北方地区たよりの発行
- ・二世帯、三世帯の家庭には複数の配布物の配布
- ・若者世帯に対するインターネットを活用した情報の受発信

イ 地区外向けの情報発信

- ・北方地区を紹介するホームページの開設の検討

資料 計画策定の取り組み

計画策定の経緯

日 時	委員会など	協議事項
平成25 (2013)年 9月17日	第1回地域計画 策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域計画策定委員会の設置 ・「地域計画」策定の進め方について
9月26日	第2回地域計画 策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査内容 ・アンケート調査の実施時期
10月10日	第3回地域計画 策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査内容 ・アンケート調査の実施時期
10月30日～ 11月14日	アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・地区住民（16歳以上） ・小学生（4～6年生）・中学生
11月19日	第1回北方地区活性 化ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> ・地区で困っていることとその解決のアイデア について
12月19日	第2回北方地区活性 化ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査結果の報告 ・地区の魅力・資源と活用アイデアについて ・地区の将来像，今後取り組みたいこと，取り 組んでほしいこと
平成26 (2014)年 1月23日	第3回北方地区活性 化ワークショップ	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回，第2回ワークショップの追加意見
2月18日	第4回地域計画 策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・計画素案の協議，修正
3月22日	第5回地域計画 策定委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・計画案の協議，承認